

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

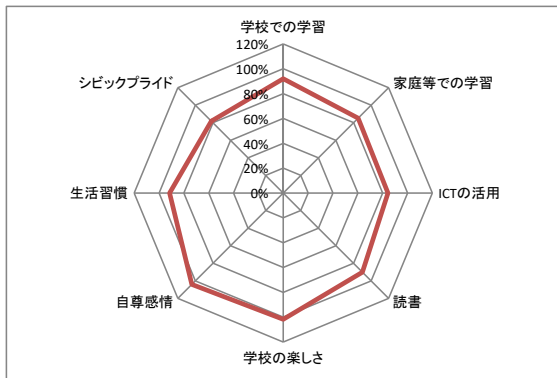
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章に対する感想や意見をもって述べている。しかし、目的に応じて必要な情報を見つけたり、情報と情報との関係を理解したりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	3二 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	1一 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 2二 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	二次元の表から、条件に合う数を読み取ったり、関連付けて読み取ったりすることができている。しかし、比例や百分率等の算数的用語の意味を理解し、説明することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	3(1) ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	1(2) 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる問題 3(4) (2位数) ÷ (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。また、「自分には、よいところがあると思う」等の自尊感情に関する質問に対しても約90%の児童が肯定的な回答をしていて、全国平均を超えている。
- 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、ドリルアプリの一層の活用や、課題意識をもたせて児童が主体的に取り組む「調べ学習」等の充実を図ることなどが必要である。
- 生活習慣や家庭等での学習の項目が全国平均を下回っている。特に「自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答している児童の割合は大きく下回っていることから、スタディウィークなどをきっかけに家庭との一層の連携を図ることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各授業では、引き続き、児童の言葉で「めあて」を設定し、「まとめ・振り返り」を表すことができるようにする。ICTの効果的な活用や学びの質を高める授業づくりを基盤とすることを全校体制で行う。また、計画的に授業公開を伴う校内研修も実施する。全ての教職員がチェックシートを基に授業を振り返ることで、授業改善に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「学校だより」やtetoru等による情報発信を通じて基本的な生活習慣の定着に向けた啓発を今後も行い、各家庭と学校が協力して取り組んでいく。引き続き、児童の家庭学習ノートの展示や、スタディウィークにおける「萩っ子ぐんぐんタイム（補充学習）」の取組を行い、進んで家庭学習に取り組む素地を養う。